

【TJ 海外事情 12 月 12 日号】

◆ フォーカスライト会議に 1800 人

11 月 14 日から 4 日間、ロスアンゼルスでフォーカスライト・コンファレンスが開催された。今年の会議テーマは「ファンネル革命」(FUNELL REVOLUTION)。全世界から 1800 人以上が参加する過去最大の会議となった。この会議は、スターアップたちを中心にオンライン旅行の斬新かつ革新的ビジネスを競い合うコンテスト「イノベーション・サミット」と、グローバル OTA やメタサーチなどの CEO たちが、オンライン旅行流通のマーケティングとテクノロジーの最新トレンドを紹介し討議する「センターステージ」の 2 部構成で編成されている。

◆「イノベーション・サミット」

このコンテストには、世界から 47 の挑戦者たちが参加した。地域別の構成は、約 60%が米州、欧州約が 30%、アジア太平洋地域が約 10%であった。アジア太平洋地域からの参加者の内訳は、オーストラリア 2 社、インド 1 社、中国 1 社であった。提案されたアイデアは、タビマエの旅行計画、タビナカのパーソナル・アシスタントや旅程管理など、販売時点 (POS) のトランザクション以外の領域に展開する提案が多かった。最近ブームになり始めている AI やチャットボットを利用したモデルの紹介も多かった。コンテスト入賞 5 社は以下の通りである。

- スタートアップ賞及び会議参加者選択サミット賞 Beyond Pricing (米)

バケーションレンタルのダイナミックプライシング (需給変動対応価格設定)。(バトルグランド 予選勝ち抜き参加社)

- エーマジック賞 Local Measure (豪)

リアルタイムによる上顧客来店通告とサービス問題発生時の警告発出

- ブランド USA 賞 Inspirock (米)

検索ボットと計画エンジンによる目的地の旅行計画支援

- ゼネラルカタリスト社賞 Hello Scout (米)

宿泊客と地元エキスパートのチャットによる TripAdvisor のレビュー改善

- 会議参加者選択ローンチ賞 Dayuse.com (仏)

バケーションレンタルのダイナミックプライシング (需給変動対応価格設定)

◆ 「センターステージ」2016 会議テーマ「ファンネル革命」

フォーカスライト上席幹部ダグラス・クインビーが、オンライン旅行の最新流通トレンド「ファンネル革命」について次のように講演した。

旅行の思いつき→下調べ→目的地選定→航空会社やホテル選択→レビューと価格検索→

予約へと、旅行を計画している人たちは旅行ファンネル(漏斗)の上から下へ連続して移動していく。その間に38の異なるサイトを訪れている。このファンネルの中の上層部から中層部そして最下層部の順に従って、そこにはそれぞれの独立した場所を守備範囲とするプレイヤーたちが存在していた。すなわち上層部ではグーグルなどの検索エンジン、中層部にはレビューのトリップアドバイザーや目的地ガイドのDMOなどや比較検索のメタサーチ、そして下層部にはOTAが存在していた。

しかし、最近になってこれらのプレイヤーたちの境界線が消滅し始めている。上層部に居たグーグルやトリップアドバイザーが、そしてメタサーチまでがサイト遷移なしで(ファンネルの下層部のプレイヤーたちに顧客を引き渡さないで)予約できるインスタント・ブッキング機能を導入したのだ。つまりファンネルの中のプレイヤーたちが自分たちの守備範囲を拡大して(境界線を乗り越えて)お互いが競争し始めている。

その上、シェアリング・エコノミーのウーバーやエアビーがファンネルの中に飛び込んできた。またSNSのFBメッセージングやチャットアプリを使用したモバイル・トラベル・チャットも割り込んできている。ファンネルが崩壊しているという人がいるが、そうではなくて、むしろ活性化していると考えるべきだろう。そこには一つサイクルが終了し、何か新しいことが起こりつつある。この現象をフォーカスライトでは「ファンネル革命」と呼ぶ。15年には1億5100万人の米国人が4億7300万回の旅をした。ということは米国では4億7300万個の膨大な数のファンネルが存在する。

世界のオンライン旅行市場は成熟し始めている。フォーカスライトは、「オンライン旅行販売はどこまで成長するのか?」「どれだけ競争余地が残っているのか?」とよく質問される。デジタルの影響、モバイルの普及、ホームシェアリングやライドヘイリングの急成長を含めて、どれだけ旅行がオンライン化したのか・・・ばかりに我々はフォーカスしてしまう傾向がある。しかし異なった視点から見てもよいのではないだろうか。例えば・・・16年の米国におけるオフラインのグロス予約は36%と予測されている。欧州旅行者の71%はホテルのロイヤルティークラブに加入していない。昨年、米国の旅行者の68%は代替宿泊施設を利用しなかった。米国の56%のビジネス旅行者と76%のレジャー旅行者はいずれもライドシェアーを利用していない。60%の米国人は、モバイルで旅行を検索していない。16年の米国の91%のグロス予約は、(91%だ!)モバイル経由の予約とはならないだろう。ファンネル革命はまさに始まったばかりだ。皆で革命を推し進めようではないか!(11/27 フォーカスライト Japan)

以下の Phocuswright Conference 報告は、次回掲載予定

- ◆ 「センターステージ」エクスペディア CEO の話
- ◆ 「センターステージ」カヤック CEO の話

◆ 「センターステージ」ブッキング・コム CEO の話

◆ ASTA、トランプ次期副大統領に陳情

ASTA が次期副大統領となる Mike Pence 宛てに、キューバ旅行を含む協会の主要な問題を記した書簡を送付した。この書簡で協会会長の Zane Kerby は、オバマ大統領のキューバ渡航規制緩和の継続と、制限完全撤廃を ASTA が希望していることを伝えている。そして規制完全撤廃となれば、19年には米国から2百万人の旅客がキューバを訪れるだろうと予測している。この他には、12月1日から施行される労働省の残業時間新規則の延期もしくは停止（給与レベルが23,660から47,476に上昇する）、運輸省の年商1億ドル以上の旅行会社に対する顧客サービススタンダード（例えば予約の24時間以内無料取り消しなど）の追加新規則案の反対、査証免除協定の継続を訴えている。

トランプ大統領選出は業界にある種の不安と期待を抱かせている。トランプ次期大統領のホスピタリティーと賭博業界のバックグラウンドに期待寄せている一方で、キューバ旅行や訪米インバウンド旅行の先行きに一抹の不安を抱いている。そして、今までの保守的な過激な報道が選挙戦のレトリックであることを願っている。(TW 11/13 goo.gl/AzgmGR)

◆ ソフトバンク、インド投資評価損

ソフトバンクが、インドのタクシー・ヘイリング APP の Ola に対する投資の評価損を計上する模様である。同社は、先週、最近数年間のインドの Ola と Snapdeal の 2 つの大きな投資で 5.55 億ドル(約 600 億円)の損失が発生していることを明らかにした。Ola は、15 年 12 月にインド第 2 位の TaxiForSure を 2 億ドルで買収したが、Uber に対抗してインド市場のトップを維持するために追加資金を必要としている。(TN 11/14 goo.gl/4zFb3w)

◆ ビジネスジェットのウーバー

メタサーチ Aviasales(露)が、ビジネスジェットのフェリー便(回航便)を販売する JetHunter 検索プラットフォームを立ち上げた。Aviasales によると、世界では毎日 3,000 便のビジネスジェットのフェリー便が存在する。その構成は、米国がおよそ半分、欧州 20%、その他の地域が 20%。これは、もう一つのウーバリゼーションだ。チャレンジャー300 型機のモスクワからイスタンブールのフェリー便は同路線の SU の C クラスの 25%引きとなる。(TN 11/15 goo.gl/sQfGkh)

◆ ローラ、ルーム 77 買収

旅行テクノロジーのスターアップ企業である Lola が Room77 を買収した。買収金額などの詳

細は明らかにされていない。Room77 は 5 年前に設立されたホテルの個別の客室の予約を可能にする OTA であるが、この革新的アイデアに賛同するホテルは出現しなかった。唯一 Hilton が、客室を選ぶことができるモバイル APP を開発している。そして、13 年には Expedia などから 3,000 万ドルの資金を調達、Google にソフトウェアのライセンスと人材を提供したが、この計画は失敗に終わっている。Room77 の中にホテルのメッセージング技術のスタートアップ企業 Checkmate を立ち上げ、今年初めそれを宿泊客のフィードバックプラットフォーム TrustYou に売却した。Room77 は、ホテルのメタサーチの特許テクノロジー開発で有名。Lola は、Kayak 共同創業者の Paul English が立ち上げたスタートアップで、OTA に AI で装備した旅行会社のエージェントを組み合わせたハイブリット型の旅行会社。ゆくゆくは、エージェントをチャットボットに取り替える構想を有している。(TN 11/15 goo.gl/fE8ec1)

◆ トリバゴ上場

独メツアーチ Trivago が、米 NASDAQ 市場上場計画を発表した。上場計画書によると企業価値は \$4 億ドルで、アナリストの予想額を下回った。12 年 12 月に Expedia が Trivago の 61.6% を \$6.32 億ドルで買収している。この買収は、Priceline Group による Kayak 買収 (18 億ドル) の 1 ヶ月後に発表された。Trivago の 16 年 1 月～9 月の 9 ヶ月間で、収入 6.574 億ドル純損 57.8 百万ドルを計上している。(TN 11/15 goo.gl/r7hLDC)

◆ グーグル、米ホテル関連検索 25%増

今や旅行のオンライン調査と予約で検索を使用するのは、時代遅れになっているというのが一般的な考えだ。消費者は、Facebook、Apple TV など旅行の調査を開始し、そしてレビューサイトの TripAdvisor、メタサーチの Skyscanner やその他のインスピレーションやリスティングの代替ソースを利用して予約しているかもしれない。しかし、Google は、同社の Hotel Ads 検索が米国で 25%増加した (16 年 7 月前年同月比) と言っている。先週、Google は Hotel Ads サイトにおける言語やプライシングモデルのフィルターを手直した。Hotel Ads が、旧来の AdWords や PPC ビジネスとどのくらい共食いしているのか、あるいは上顧客である広告主の OTA やメタサーチのシェアをどのくらい奪っているのかは不明であるが、Google は、コミッションベースと直販アプローチのこの新プロダクトが、ホテルと消費者から好評を受けていると確信している。(TN 11/17 goo.gl/iTkWvD)

◆ ミレニアルはライドシェアリングの Uber が大好き

Uber のブランド認知は極めて高い。調査会社の RobertLinker によると、米国のミレニアルの 96% がライドシェアリングでどこの会社を使うか? の問いに対して Uber と回答している。70%

が出かける時は Uber を呼ぶだろうと言っている。人気の理由は様々であるが、この年代の 25%は車を所有せず運転免許も取得していない。Uber の利用回数では、週に 2~5 回が 7%、月に 2~5 回が 25%となる。ライバル企業のブランド認知度は Lyft が 75%、Zipcar は 42%、Enterprise CarShare は 19%、Hertz OnDemand は 15%。人気の一方で、安全・データのプライバシー・セキュリティに加え、しばしば車のアベイラビリティが不安や懸念の要因となっている。便利さ、コスパ、環境保全がライドシェア人気を高めているのは確かだ。(TN 11/18 goo.gl/V59YDo)

◆ エアビーが目的地 T&A 販売開始

Airbnb が会社創立後、ホームシェアリングに続く初めての最も重要な新サービス Trips を立ち上げて、目的地の T&A(ツアー&アクティビティ)市場に参入した。「旅行を再びマジカルな(魔法のように魅惑的な)ものする」と宣伝している。以前から宿泊施設のホストがローカルの T&A を案内することを試験的に始めていたが、今回の新プロダクト Trips ではこれらに加えて第三者が関係するものも加え、世界 12 都市の合計 500 の体験プログラムを網羅する。そして、さらに 39 都市のプログラムが現在掲載準備中である。Trips は、体験(Experiences)、プレイシス(Places)、ホーム(Homes)の 3 つで構成、体験では現地の T&A を、プレイシスではお勧めの見所やレストランを、そしてホームでは宿泊施設をそれぞれ紹介する。18 年までにはこれら以外に、例えば交通手段である航空便やレンタカーなどにまで手を広げる計画だ。既存の目的地 T&A 関連企業の OpenTable、Viator、Ticketmaster などと競合することになるのか？それとも協業することになるのか？今後の動向が注目される。また航空便やレンタカー予約まで手を広げることになれば、Airbnb が OTA になってしまうことになる。(TN 11/18 goo.gl/txzkeZ)

◆ 自動運転、2035 年 2200 万台

25 年には世界で 2200 万台の自走運転自動車が存在するだろう。数百万人のタクシー運転手が失業する。安全性の厳格なスペックが適用されるが、旅行のための自動運転は 25 年により近い年まで導入されないだろう。そして自家用車所有とカーシェアリングとレンタカーの境界線がますます分かりづらくなるだろう。地域別では、極東と中国が 34%(25 年)で欧州米国を圧倒する。これは Juniper Research の予測。(TN 11/22 goo.gl/mLGEqa)

◆ Cトリップ、百度と旅行投資ファンド設立

Ctrip の CFO Jenny Wu が、今年 10 月に百度が設立した Baidu Capital のマネジング・パートナーとなった。彼女は、Ctrip が Baidu Capital と共同出資する旅行投資ファンド HJ Capital (Happy Journey Travel Industry Fund) の統括責任者となる。Wu は、香港大学サイエンス & テ

クノロジーと南海大学の2つの修士号他、香港大学でファイナンスの博士号を取得している。Ctrip では、中国の Airbnb と言われている Tujia 買収、インド最大 OTA の MakeMyTrip 出資、Priceline Group との資本提携、Travelfusion 買収、14 年の中国第4位(当時)の OTA 買収などの数々の投資案件に関わった。(ChinaTravelNews, 11/23, goo.gl/y7ixb8, TN 11/23 goo.gl/5L9roS)

◆ IATA 航空旅客需要予測 2035 年 72 億人

IATA が 20 年後の航空旅客数が 72 億人になると予測している。16 年の 38 億人のほぼ倍だ。この膨大な数が政治・文化・ロジステック・メカニカルに与える波及効果は極めて大きなものがある。この増加の半分はアジア太平洋地域からもたらされるだろう。24 年には中国が米国を抜いて世界最大の航空旅客数となるだろう。そして第3位は、英国を抜いてインドが上がってくる。IATA 事務総長は、滑走路・ターミナル・保安施設・手荷物システム・管制・その他のすべての要素の対応準備が迫られていると語っている。需要の増加はアジア太平洋地域からばかりではない。需要増トップ 10 カ国はアフリカ市場となるだろう。シエラレオーネ、ギアナ、中央アフリカ共和国、ベニン、マリなどは平均年増率 8%以上の国々だ。(TN 11/24 goo.gl/IRdpjk)

◆ Cトリップ、スカイスキヤナー買収

中国最大 OTA の Ctrip が英メタサーチ Skyscanner を\$17.5 億ドル(約 1,800 億円)で買収した。買収資金の大半は現金で一部に Ctrip 株式が含まれる。買収目的は Ctrip の世界市場シェア拡大にある。Ctrip によれば、Skyscanner のマージンは 20~25%で、買収シナジーにより増益できると確信していると語っている。Ctrip は 15 年に英国のコンテンツ・アグリゲーターの Travelfusion を買収している他、今年 1 月にはインド最大 OTA の MakeMyTrip に 1.8 億ドルの投資を行っている。Priceline Group は、Ctrip の少数株 15%を保有している。(TN 11/24 goo.gl/OtasZF)

+++++ +++++ +++++